

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「話の意図を考えてきき合い、「きくこと」について考えよう」 教材名「きいて、きいて、きいてみよう」

2 単元の目標

情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（〔知識及び技能〕(2)イ）

話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。（A(1)エ）

聞く意図をもち、相手の答えに沿う質問で考えを具体的にする学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。 （〔知識及び技能〕(2)イ）	①「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。（A(1)エ）	①聞く意図をもち、相手の答えに沿う質問で考えを具体的にする学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

聞く意図をもち、相手の答えに沿う質問で考えを具体的にする。この教材では、質問の意図・返答・自分の考えの変化の記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

記録には相手の答えと自分の考えを別欄にする。録音は学校の利用条件に従い、紙のメモでも確かめられるようにする。想定する難しさは、質問用紙を埋めるだけで、相手の考えと自分の考えを比べない。評価では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめているかを、質問の意図・返答・自分の考えの変化の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。単元の終わりに残す記録を確かめ、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○話し手・聞き手・記録を見る役を交代し、学校での関心事を聞き合う。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）
第3次	4～5 （本時）	○話し手・聞き手・記録を見る役を交代し、学校での関心事を聞き合う。返答の理由や例を整理し、聞き手は自分の予想との違いを短く報告する。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	6	○聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (4/6)

(1) 本時の目標

話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(A(1)工)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。 ○「用意した質問と今の答えを比べると、次に何を確かめたいですか」 【めあて】聞く意図をもち、相手の答えに沿う質問で考えを具体的にします。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ質問でも聞く人の意図によって知りたいことが違う。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「用意した質問と今の答えを比べると、次に何を確かめたいですか」 話し手・聞き手・記録を見る役を交代し、学校での関心事を聞き合う。返答の理由や例を整理し、聞き手は自分の予想との違いを短く報告する。 聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ質問でも聞く人の意図によって知りたいことが違う。 ・答えを受けて質問を変えた。	記録には相手の答えと自分の考えを別欄にする。録音は学校の利用条件に従い、紙のメモでも確かめられるようにする。 想定する難しさ：質問用紙を埋めるだけで、相手の考えと自分の考えを比べない。 評価では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめているかを、質問の意図・返答・自分の考えの変化の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 質問の意図・返答・自分の考えの変化の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・答えを受けて質問を変えた。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「用意した質問と今の答えを比べると、次に何を確かめたいですか」。中央は、質問の意図・返答・自分の考えの変化の記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

